



## 第28回 会員便り 雑 感

長田 征也

外国の方に日本語学習のお手伝いをする中で、日頃感じていることを少し述べてみたいと思います。

数日前、近所の方に「おはようございます」とあいさつしたところ、「どうも」という返事が返ってきて仕事に出かけていきました。また、昨年暮れ、日本語学習のお手伝いをしている中国の方の所へ伺った折、私は「こんにちは。どうも」と言い、帰る時には「それじゃあ又。どうも」と言って帰ってきました。中国の方はやや怪訝そうな顔をしていました。この「どうも」という言葉は、また、こんな使い方もされます。「この話はどうもね」などと。この言葉、日本人にとっては非常に便利によく使っていますが、外国の方にはよくわからない言葉だろうと思います。私の知人に、何人かの人がいるところへ来た時のあいさつを「どうも、どうも、どうも」だけで済ます人がいます。その場に外国の方が居たら、おそらく何を言っているのかわからないだろうと思います。

さらに、「ちょっと」という言葉があります。これも外国の方にとってはわかりにくい言葉のようです。もう30年以上前に中国人のA氏からこんな話を聞いたことがあります。A氏は日本語の研究のため日本の大学に留学していました。来日して空港に降り立った氏は、通りかかった日本人に日本語で「市内に行くにはどう行ったらいいのですか？」と尋ねたところ、聞かれた日本人は「あっ、ちょっと・・・」と答えて行ってしまったそうです。氏は「ちょっと＝少し」と学んできたので、「少し」待てば戻ってくるものと思って待っていましたが、ついに戻ってはこなかったというのです。後で日本人の友人から、その場合の

「ちょっと」は「少し」の意味ではなく、「わからない」という意味だと教えられて驚いたそうです。A氏は日本語の研究のために日本の大学に留学生として来たくらいですから、外国人としては日本語に通じているほうだと思われます。そのA氏でさえ、「ちょっと」という言葉がどのように使われ、どんな意味を表すのか理解できなかったのです。この「ちょっと」という言葉も、「どうも」と同じように、「この話はちょっとね」などという言い方がされることがあります。外国の方にはなんともわけのわからない言葉として映ることでしょう。

これらの「どうも」「ちょっと」という言葉の意味や使い方は、物事を断定的に言いたくない、そのために婉曲表現を多くしたり省略した言い方を多くしたりする日本人の特性に由来するのではないのでしょうか。それがこういう形での言語表現となったものと思われます。

私たちは、自分たちが生活する地域の環境を反映した文化を形成してきました。そして、その文化に基づいて言語活動をし、コミュニケーションを図ってきました。その地域・あるいはその国の言語表現は、まさに、この積み重ねてきた文化が反映されたものだと思います。文化を異にする外国の方が日本語を学習するにあたっては、私たちが古来積み重ねてきた日本文化にできるだけ多く接し、日本人の心あるいはものの考え方などを理解してもらうことが大事なんだろうと思います。より深く、より日本人に近い感覚で日本語を理解してもらうために。単なる理想に過ぎないと言われるでしょうが、外国の方の日本語学習をお手伝いする時、先に述べた日本人特有の表現をも理解できるような段階にまでいけたらいいなと常々思っております。もちろんそんなに簡単にできることではないと思っておりますが・・・。

本年もできる範囲で日本語学習のお手伝いができたらと思っております。よろしく願いいたします。